



平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年9月20日

上場会社名 株式会社ジーンズメイト 上場取引所 東
 コード番号 7448 URL <http://www.jeansmate.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西脇 昌司
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 砂田 真一 (TEL) 03(5738)5555
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月2日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の業績(平成25年2月21日～平成25年8月20日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	4,936	△9.8	△248	—	△226	—	△292	—
25年2月期第2四半期	5,474	△5.1	△60	—	△51	—	△124	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年2月期第2四半期	△26.80		—					
25年2月期第2四半期	△11.37		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年2月期第2四半期	7,531	5,802	77.0
25年2月期	7,993	6,093	76.2

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 5,802百万円 25年2月期 6,093百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年2月期	—	0.00			
26年2月期(予想)			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年2月期の業績予想(平成25年2月21日～平成26年2月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,250	△6.1	△400	—	△370	—	△530	—	△48.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年2月期2Q	12,651,466株	25年2月期	12,651,466株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年2月期2Q	1,724,137株	25年2月期	1,723,709株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年2月期2Q	10,927,511株	25年2月期2Q	10,928,226株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実行中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(平成25年2月21日から平成25年8月20日まで)におけるわが国経済は、政府による経済政策等の効果もあり、企業収益が徐々に改善され景気回復の兆しが見えてまいりました。一方で個人消費においては一部で回復傾向がみられるものの、物価上昇の懸念などもあり先行きは不透明な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社では業績の回復と安定成長への基盤づくりに向けて取り組んでまいりました。

商品面におきましては、春先にはキャンペーンを実施したシャツやデニム5ポケット類が好調に推移いたしました。上半期の売上シェアの高いゴールドデンウィークにおいて天候不順により夏物商品の売上を伸ばすことができませんでした。また、盛夏になりショートパンツやクール素材のボトムス類は比較的堅調に推移しましたが、売上の柱となるべきTシャツやポロシャツ類が前年を下回る水準で推移いたしました。

販売面といたしましては、売場でのシーズンテーマの打ち出しを明確にするとともに、メールによる新商品情報や会員様限定クーポンをはじめとしたお買得情報等の配信を継続実施してまいりました。また、新聞折込広告を一部店舗で再開するなど、お客様へのアプローチを拡大してまいりました。

出退店につきましては、出店はなく、2店舗(「ワケあり本舗」「Happy Door」各1店舗)を退店したことにより当第2四半期会計期間末の総店舗数は98店舗(うち24時間営業店舗は17店舗(すべて「JEANS MATE」))となりました(業態内訳は下表参照)。

以上の結果、売上高49億36百万円(前年同四半期比9.8%減)、営業損失2億48百万円(前年同四半期は営業損失60百万円)、経常損失2億26百万円(前年同四半期は経常損失51百万円)、四半期純損失2億92百万円(前年同四半期は四半期純損失1億24百万円)となりました。

業態別店舗数

業態	店舗数	出店地域(都道府県)
JEANS MATE	81店舗	東京 神奈川 千葉 埼玉 愛知 大阪 兵庫 広島 山口 福岡
ワケあり本舗	13店舗	東京 神奈川 千葉 愛知 三重 大阪 兵庫 福岡
Happy Door	3店舗	神奈川 栃木 広島
Blue Standard	1店舗	大阪

(2) 財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ4億61百万円減少し、75億31百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ5億37百万円増加し、48億80百万円となりました。これは主に現金及び預金が2億52百万円減少しましたが、有価証券が8億38百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ9億99百万円減少し、26億50百万円となりました。これは主に投

資有価証券が9億71百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ1億69百万円減少し、17億29百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ1億50百万円減少し、9億24百万円となりました。これは主に支払信託が1億円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ19百万円減少し、8億4百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ2億91百万円減少し、58億2百万円となりました。これは主に四半期純損失を2億92百万円計上したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、前事業年度末に比べ3億64百万円減少し、8億49百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果支出した資金は、3億93百万円(前年同四半期は30百万円の支出)となりました。これは主に税引前当期純損失が2億71百万円、仕入債務の減少による支出が1億5百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、26百万円(前年同四半期は1億71百万円の支出)となりました。これは主に有価証券・投資有価証券の取得及び償還に伴う純支出が32百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、期末配当を行わなかったことにより0百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における業績の進捗を勘案し、業績予想の見直しを行った結果、平成25年4月5日の当社「平成25年2月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」にて発表いたしました業績予想を修正いたしました。当該予想に関する詳細は、平成25年9月13日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度において営業損失1億59百万円、当期純損失2億97百万円となり、当第2四半期累計期間においても営業損失2億48百万円、四半期純損失2億92百万円となりました。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当該状況を解消又は改善すべく、商品力及び販売力の強化を中心に収益力の回復に取り組んでまいります。

① 品揃えの拡充

前事業年度より本格稼動したプライベートブランド「Blue Standard」(コアターゲット30～40歳代の男性)は堅調に推移していることから引き続き拡充していくとともに、20歳前後の男性向けブランドやこれまで未着手であった女性向けのブランド開発にも取り組み、他社との差別化や利益率の向上に努めてまいります。

② 売場の再構築

商品カテゴリーを明確にするとともに、店舗ごとの売場規模やお客様の特性などを再検証して、最適な売場づくりを追求してまいります。

③ 来店客数の回復

前事業年度の販促活動としてはファッション雑誌への出稿を中心に取り組んでまいりましたが、チラシ販促(新聞折込広告)の再開やソーシャルメディアの有効活用を引き続き検討し、客数の回復に努めてまいります。

④ ワケあり本舗業態の確立

ロープライス業態である当業態については、前事業年度より専門チームを組織化し、収益力のさらなる向上に取り組んでまいりました。引き続き、取扱商品の拡大や鮮度の向上等を目指しながら業態として確立できるよう努めてまいります。当第2四半期会計期間末で13店舗(他、短期契約店舗3店舗)となりました。

⑤ 新業態店舗の開発

これまで、マスマーケットに向けた「JEANS MATE」、ロープライス型の「ワケあり本舗」、女性の生活を楽しくする「Happy Door」を展開し、前事業年度にはプライベートブランドを中心にした商業施設向けショップ「Blue Standard」を立ち上げました。今後は当業態の動向を検証するとともに、商業施設向けを中心に新たな業態開発にも取り組んでまいります。

⑥ 不採算店の撤退促進

前事業年度では合計24店舗を閉鎖いたしました。引き続き店舗ごとの業績について検証を行い、将来性の乏しい店舗については撤退を促進し、経営資源を集中させてまいります。当第2四半期会計期間末では2店舗を閉鎖いたしました。

上記を中心とした施策を講じながら収益力の回復に努めてまいりますとともに、今後の運転資金は十分に確保できていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年2月20日)	当第2四半期会計期間 (平成25年8月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,144,808	892,551
売掛金	126,436	161,608
有価証券	1,207,254	2,045,299
商品	1,727,342	1,662,594
その他	137,286	118,890
流動資産合計	4,343,128	4,880,943
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	1,634,989	663,816
敷金及び保証金	2,009,829	1,981,723
長期未収入金	297,765	297,165
その他	5,230	5,230
貸倒引当金	△297,765	△297,165
投資その他の資産合計	3,650,049	2,650,771
固定資産合計	3,650,049	2,650,771
資産合計	7,993,178	7,531,714
負債の部		
流動負債		
支払信託	242,242	142,121
買掛金	171,085	165,728
賞与引当金	25,023	46,544
ポイント引当金	179,667	182,173
店舗閉鎖損失引当金	7,664	—
資産除去債務	6,127	20,733
その他	443,196	367,579
流動負債合計	1,075,008	924,880
固定負債		
資産除去債務	482,427	462,895
長期未払金	335,877	335,877
その他	5,940	5,940
固定負債合計	824,244	804,712
負債合計	1,899,252	1,729,592
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,812	2,015,812
資本剰余金	2,125,434	2,125,434
利益剰余金	3,215,101	2,922,222
自己株式	△1,259,600	△1,259,733
株主資本合計	6,096,747	5,803,735
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2,822	△1,446
繰延ヘッジ損益	—	△166
評価・換算差額等合計	△2,822	△1,613
純資産合計	6,093,925	5,802,122
負債純資産合計	7,993,178	7,531,714

(2) 四半期損益計算書
第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年2月21日 至平成24年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年2月21日 至平成25年8月20日)
売上高	5,474,370	4,936,167
売上原価	2,862,052	2,693,799
売上総利益	2,612,318	2,242,367
販売費及び一般管理費	2,672,726	2,490,583
営業損失(△)	△60,408	△248,215
営業外収益		
有価証券利息	15,102	15,606
為替差益	—	1,619
受取賃貸料	5,940	6,225
その他	4,059	4,706
営業外収益合計	25,101	28,158
営業外費用		
投資有価証券償還損	9,325	—
賃貸費用	5,940	5,940
その他	965	890
営業外費用合計	16,230	6,830
経常損失(△)	△51,536	△226,888
特別損失		
減損損失	36,911	44,667
店舗閉鎖損失引当金繰入額	11,525	—
特別損失合計	48,437	44,667
税引前四半期純損失(△)	△99,974	△271,555
住民税	24,274	21,323
四半期純損失(△)	△124,249	△292,878

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年2月21日 至 平成24年8月20日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年2月21日 至 平成25年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△99,974	△271,555
減価償却費	5,476	4,095
減損損失	36,911	44,667
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,883	21,520
ポイント引当金の増減額(△は減少)	4,407	2,505
店舗閉鎖損失引当金の増減額(△は減少)	△12,982	△7,664
受取利息及び受取配当金	△15,328	△15,606
為替差損益(△は益)	—	△1,962
投資有価証券償還損益(△は益)	9,325	—
売上債権の増減額(△は増加)	△34,817	△35,172
たな卸資産の増減額(△は増加)	146,324	64,748
仕入債務の増減額(△は減少)	△8,646	△105,478
その他	△30,601	△60,607
小計	1,978	△360,508
利息及び配当金の受取額	14,292	16,243
法人税等の支払額	△46,496	△48,862
営業活動によるキャッシュ・フロー	△30,225	△393,128
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△1,723,872	△1,092,975
有価証券の償還による収入	2,425,847	1,155,108
有形固定資産の取得による支出	△32,303	△15,645
無形固定資産の取得による支出	△1,400	△14,400
投資有価証券の取得による支出	△1,500,000	△55,000
投資有価証券の償還による収入	500,323	25,000
敷金及び保証金の差入による支出	△24,300	—
敷金及び保証金の回収による収入	183,296	38,872
その他	649	△14,100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△171,759	26,858
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△90	△132
配当金の支払額	△319	△113
財務活動によるキャッシュ・フロー	△410	△246
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	1,962
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△202,395	△364,554
現金及び現金同等物の期首残高	1,708,668	1,214,099
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,506,273	849,545

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。